

民主党神戸市会議員団 管外調査報告書

I. 日 時：平成25年5月16日（木）

II. 視察場所：川崎市 殿町地区キングスカイフロント

（京浜臨海部ライフノベーション国際戦略総合特区 国際戦略総合拠点）

III. 視察目的：

①殿町国際戦略拠点キングスカイフロントの概要と進展状況についての調査

（川崎生命科学環境研究センター：LiSE にて）

②施設見学（実験動物中央研究所：実中研）

IV. 対応者：

①川崎市総合企画局臨海部国際戦略室 大山担当課長、栗須担当係長

②実中研 野村理事長、阪田広報担当

V. 調査者：藤原武光、川原田弘子

VI. 視察内容：

1. 殿町国際戦略拠点キングスカイフロントの概要と進展状況について



京浜臨海部ライフノベーション国際戦略総合特区には、4か所の区域（みなとみらい・末広・福浦・殿町）があり、殿町地区のキングスカイフロント拠点は、多摩川をはさんで向こう岸が国際線の離発着する羽田空港という好立地にある。

元は、いすゞ自動車の大規模工場が立地し、いすゞ自動車の城下町的色彩の街であったが、撤退後の跡地利用をいろいろと考えられた結果、ライフノベーションの拠点にしようとキングスカイフロントとして再出発した。

川崎市は、臨海部が京浜臨海工業地帯として発展した町であるが、同時に、高度成長期より公害・環境問題に苦しみ、課題克服に官民一体となって取り組んできた経緯がある。このため、市内に立地する企業には、世界レベルの環境技術を持ち合わせたところも多く、また、ライフノベーションやグリーンイノベーションの分野での研究開発も進んでいる企業が多い。

こうした強みを、羽田空港の国際化による対岸の国際物流拠点化と併せて活かし、ライフイノベーションの拠点として企業・研究拠点の誘致に取り組まれている。

現在は、ライサイエンス機能のエリアには、①「実中研」②「LiSE」の二つの建物しか建っていないが、来年以降も次々と建設される予定。他の物流エリアなどには、ヨドバシカメラや全日空などの物流拠点の工場などが稼働している。

①実中研 実験動物の均一化などが目的で始まった民間の公益財団法人機関（別途）

②川崎生命科学・環境研究センター

1 Fに、障がい者就労支援のカフェ「モトヤマ・エクスプレス」が入る共用施設。付近には何もなく、貴重な施設。障がい者就労の場として憧れてもらえるような職場に、ということもねらい。

2 Fに川崎市健康安全研究所、3 Fに川崎市環境総合研究所、4 Fがレンタルラボとなっている。

いわば、神戸市の「環境保健研究所」が入っているような施設。研究所の所長には、新型インフルエンザで有名になった国立感染症センターの所長、岡部氏を定年退職を機に迎え入れている。

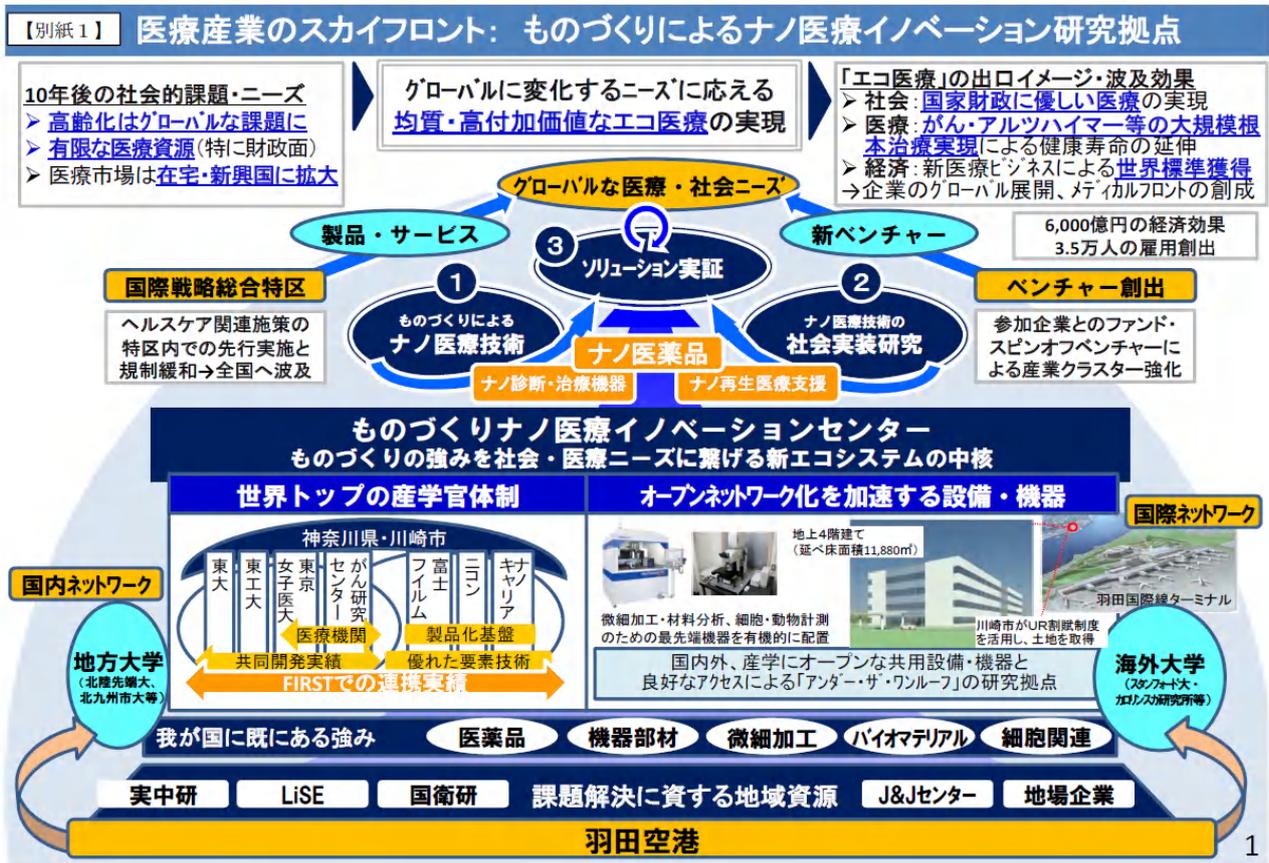
③（H28年度完成予定）国立医薬品食品衛生研究所 世田谷区にある建物が老朽化し、移転先を探していた。府中市の軍用地に移転しようとしていたが、公園を希望する地域住民の反対で進まず、20年間フリーズ。このため、キングスカイフロントへスムーズに移転が決まる。

レギュラトリー・サイエンス regulatory science *注 を実施していく機関。

*注：医薬品、医療機器等の品質・安全性・有効性を確保するためには、基礎科学や応用科学による試験研究の結果等に基づき、的確に評価、予測、判断し、社会に受け入れられるように管理調整することが必要。医薬品、医療機器等の発展に伴い、これらの課題に迅速・的確に取り組むことはますます難しくなっており、その基盤となる科学（レギュラトリーサイエンス）

新たな医薬品の安全性の基準を作る。

④ものづくりナノ医療イノベーションセンター



東大 片岡先生が研究されているナノ医療工学を中心に、実用化を目指す各企業が参画する。11月着工で来年11月に完成する。

ナノ工学を利用した新たな医薬品開発の実例として、ナノレベルのカプセルに抗がん剤を入れ、極小カプセルががん細胞のみに入っていく、がん細胞のみを攻撃できるDDSというカプセル化技術など。DDS(Drug Delivery System) 他には、例えば、1～2週間しか化合物として安定でないポリオの生ワクチンをドライ化してカプセルに入れ、薬として服用させる、など。

東京女子医大、富士フィルム、ニコンなどが入る予定。

⑤ (H26運用開始) ジョンソン・エンド・ジョンソン(株)川崎サイエンスセンター

ジョンソン・エンド・ジョンソンの医療機器を用いて、医師がトレーニングを行うことができるセンター。新しい医療機器を、末端ユーザーである医師にトレーニングの場を提供し、使ってもらうことにより、購入にもつなげられるというねらい。誘致の際の条件として、周辺機器などを市内の中小企業で作らせてもらえないか、など組み入れているということ。

対岸が24時間対応の羽田国際空港となり、直近に橋を建設すれば、15分で移動できる距離となる。(現在でも、高速を通ればタクシーで15分くらいの距離にある。)国際物流の拠点として、対岸でも、物流拠点の整備は急ピッチで進められており、今後、研究・物流両面で発展するものとみられる。



対岸に羽田国際空港。



未利用土地は2.8ha



1階に環境技術の展示・発信コーナー
市内の企業の環境技術を世界に発信。ASEAN/中国からの問い合わせ多い。

2. 実中研 見学

LiSEの隣にある実中研は、キングスカイフロントの最初の拠点として、何もない時から進出、開業されてきた。

公益財団法人・実中研は、故・野村達次氏によって1952年に創設された、研究者に実験動物を提供する民間の研究機関。現在の野村理事長は、ご子息で、三井物産を退社され、事業を引き継がれた。所員70名、派遣研究員50名、合計120名が働いている。

研究目的に合わせて世界にひとつしかない動物を創生するなど、研究者に実験動物を提供する。

例)

ポリオマウス・・・ヒトとサルしかかからないポリオにかかるマウス。ポリオの生ワクチンは、注射タイプの不活性化ワクチンに比べ、コストが断然安く、発展途上国では生ワクチンが標準に使われる。ポリオマウスを用いて生ワクチン出荷時に検査を行い、安全性を高める。WHOの標準検査に用いることが承認された。

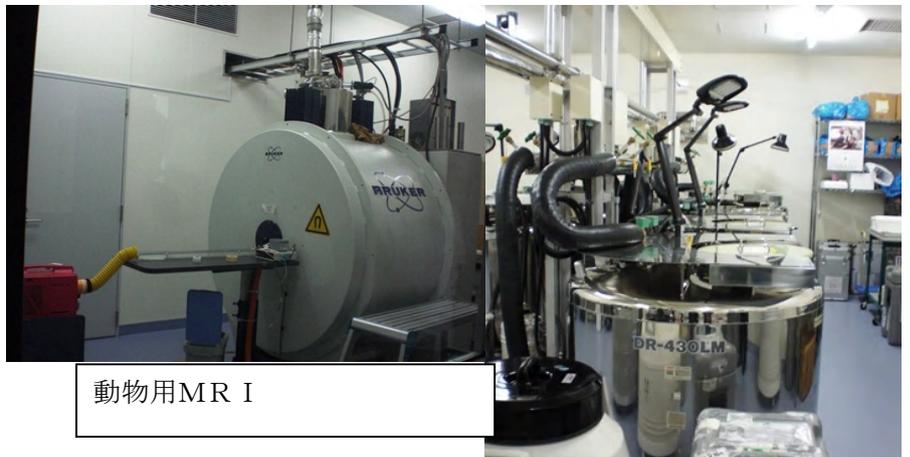
超免疫不全マウス・・・マウスを全く免疫不全にすることで、他者の細胞を受け入れさせることができる。ヒトの血液や臓器がマウスの体内で生育できる。

規格化マーモセット・・・サルはヒトに近いことで実験動物としてマウスの実験の後に霊長類として用いられるが、マーモセットが小型で扱いやすいことに先代理事長が着目し、規格化を進めてこられた。現在、脊髄損傷のモデルとしてなど用いられている。

マウスは、受注後、冷凍してある受精卵を解凍し、代理母となるマウスに受精卵を着床させ、子どもを産ませる。受精卵は遺伝子情報などが正確に把握されており、ニーズに応じて決まったマウスが誕生する。



野村理事長と



動物用MRI

マウス受精卵
液体窒素冷凍保管装置

3. 所感

羽田国際空港が目と鼻の先であるという点、また、製造業の大企業が集積しており、各企業において、ライフサイエンス分野への進出が加速されている状況などから、今後、目覚ましく産業拠点として発展する可能性がある。

上記2点は神戸にはない点であるが、川崎にはない神戸のメリットもある。国の中で都市間競争ばかりしていても始まらないと思う。国の施設や企業の誘致合戦ばかりして、体力を消耗するより、連携して互いにメリットを最大限発揮できる道を模索すべきと考える。病院群、京とSACLAのネットワーク、分子イメージング統合拠点、発生・再生科学研究センター、等々、神戸の強みを活かして、川崎にもメリットがあり、神戸には、国際線の滑走路が増えたと考えられるような連携もできるのではないかと。